

## 第 33 回 神奈川県がん診療連携協議会 議事録

日 時：令和 6 年 7 月 29 日(月) 16 時 30 分～17 時 50 分

開催形式：オンライン会議

出席者：77 名（出席者名簿 別添）

### 1. 開会の挨拶

- ・酒井協議会長より、開会が宣言された。
- ・古瀬神奈川県立がんセンター総長より、東京都に次ぐ大所帯の神奈川県において、先生方とのネットワークをしっかりと作って、神奈川県のがん医療の推進に協力願いたいと挨拶された。

### 2. 出席者ご紹介

- ・神奈川県歯科医師会の高橋常務理事及び神奈川県がん・疾病対策課の津島課長はじめ 4 名の方からご挨拶いただいた。

### 3. 神奈川県がん診療連携協議会について

- ・酒井協議会長より、神奈川県がん診療連携協議会について次のとおり概要が説明された。
- ・協議会には、都道府県がん診療連携拠点病院のがんセンターはじめ、今年 4 月にあらたに指定された横浜医療センターを含めて国指定の拠点病院が計 23 施設。県指定の診療連携指定病院が 9 施設。合計 32 施設が参加している。そこに医師会と歯科医師会、神奈川県がん・疾病対策課にご参加いただき、さらに今年度からは、小児がん拠点病院のこども医療センターにも構成員として加わっていただいた。
- ・協議会の下には 5 つの部会（相談支援部会、院内がん登録部会、緩和ケア部会、がん薬物療法部会、P D C A サイクル部会）が活動中である。さらに昨年度第 2 回の協議会において承認されたピアサポート促進検討会議が活動を開始した。
- ・こども医療センターの慶野先生と、ピアサポート促進検討会議議長の佐々木先生、横浜医療センターの松田先生にご挨拶いただいた。
- ・酒井協議会長より、協議会をはじめとする今年度の会議の開催予定が説明された。第 2 回協議会は 3 月 3 日開催予定。
- ・昨年度第 2 回協議会において、酒井協議会長より提案された次の 2 項目について、現状が説明された。
  - 1) 大規模災害時、感染症まん延時におけるがん治療としての B C P については、第 2 回協議会終了後にセミナーを開催する予定。
  - 2) がん患者と家族の参画については、ピアサポート促進検討会議にがん経験者の 2 名に参加してもらっており、そこから、今後、協議会における患者と家族の参画のあり方を検討

していきたい。

#### 4. 議題

##### ①第 17 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の報告

- ・ 7 月 11 日にオンラインで開催された。

##### 1. がん診療連携拠点病院等の整備指針見直しスケジュールについて

- ・ 拠点の見直しが 4 年毎に対し、がん対策推進基本計画が 6 年毎のため、2 年ずつのタイムラグが生じる課題があったことに対し、がん対策推進基本計画の見直しにおける医療提供体制にかかる検討と診療連携拠点病院等の整備指針の改訂に係る検討を連動させて、拠点病院の整備指針の見直し期間を 6 年毎として、がん対策推進基本計画の見直し期間と一致させることになった。
- ・ 整備指針の見直しは、次回は令和 10 年を目途にするが、ゲノムと小児の整備指針については従来とおり必要に応じて見直すこととする。
- ・ 拠点病院の次の指定期間は、2 年間（令和 9 年から 10 年）とし、その後は 6 年間となる。

##### 2. 部会からの報告

###### <がん登録部会>

- ・ 全国がん登録システムの不具合でデータの公表が遅れていたが、復旧したため公表された。詳細はHPを参照してほしい。
- ・ 本年度の院内がん登録全体のスケジュールが提示されている。各施設にも担当者宛てにメールが届くので、期限に遅れないように提出してほしい。
- ・ がん登録の研修を受けなければ、認定試験を受けられない規定があるので注意してほしい。認定は 4 年毎の更新となるので、更新が遅れると、拠点病院や指定病院の認定に影響する。

###### <情報提供・相談支援部会>

- ・ 5 月 24 日にオンラインで開催された。
- ・ 主な議題は、部会のこれまでの取り組みと今後の在り方についての検討と大規模災害時のがん相談支援センター間の情報共有。
- ・ 大規模災害時に、がん患者が長期にわたってがん治療から疎外される状況を防ぐ必要があるため、がん相談支援センター間の情報共有が重要である。
- ・ これまでエクセルを用いて病院としての患者受け入れ状況の情報収集を行いWEB公開してきたが、今回事務局から、エクセルでの収集を中止、WEBフォームに情報を入力する形への変更が提案された。
- ・ 入力のタイミングは災害発生後 1 週間程度経過時点としたいとのこと。
- ・ 災害時にも連携して情報収集・提供にあたることをあらためて合意した。

###### <緩和ケア部会>

- ・最終開催日は昨年の12月8日で、すでに昨年度の第2回協議会で報告しているため、情報の更新は特にないが、主な点について繰り返し説明する。
- ・情報共有としては、緩和ケアロジックモデル採用の経緯の説明、難治性疼痛に対応する連携、緩和ケアにおける介護施設との連携の取り組み紹介、WEBコンサルテーションシステムの取り組み紹介等があった。
- ・ロジックモデルの説明では、拠点病院だけで緩和ケアを提供するのではなく、地域でも緩和ケアが途切れないように連続性の確保やロジックモデルやアウトカムを共有できるようにしくみを作ったと話があった。
- ・京都の好事例の紹介では、神経ブロックはどこに頼むことができるのかなどの面で連携し、共有する部会の取組みが報告された。神奈川県でも同様の取組みを実施している。
- ・岐阜県の事例紹介では、拠点病院と地域の施設等との連携に関する取組みが紹介された。勉強会や施設訪問などお互いに、できることお願いしたいことを共有化した。
- ・国立がんセンター病院が、WEB上で質問できる、「チャレンジキャンペーン」を実施していると紹介された。

### 3. AYA世代妊孕性温存事業

- ・ネットワーク構築の報告があった。
- ・全国レベルでみるとネットワーク構築がうまくできているところとできていないところがあるようだ。神奈川県にはKanaOf-netがあり、神奈川県が介入して、拠点病院と妊孕性温存の治療施設が密接に連携を取ることができている。

### 4. 臨床研究の実施状況と研究結果活用の促進

- ・臨床研究実施状況に係る情報の活用促進ではjRCTやjRCT IDの利用が提案された。
- ・患者目線に立った場合、治験や臨床試験などの進捗状況やアクセス方法を分かりやすくすることは、当県でも課題となる。

### 5. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会および各部会のあり方について

- ・国の部会は、事務がメインで運営しているため、現場との温度差があることが課題のようである。

## ②神奈川県からの報告（白沢副主幹）

### <計画>

- ・計画が完成した。全体目標は、「誰一人取り残さないがん対策を推進すること」。3本柱とそれぞれの個別施策がある。
- ・3本柱のひとつの「患者目線に立ったがん医療の提供」に、「県がん診療連携協議会の役割」という項目を新しく追加し、県内の医療機関等が連携することで、患者が知りたい情報を分かりやすく提供できるようにする。
- ・医療機関間で患者を紹介できる体制を構築する、がん情報の公表等、患者目線に立った内容を書いている。がん情報の公表では、拠点病院、指定病院の情報を集約して、県やがんセンターのHP等を活用して、分かりやすく公表していく。

- ・協議会への患者参画も挙げている。このことは国も力を入れており、県でも進めたいと考えている。
- ・感染症発生・まん延時や災害時等の体制の構築として、災害時にも治療を継続するための連携体制の整備に取り組んでいく。

#### <防がんMAP神奈川県板>

- ・4月30日に知事の会見で完成版を公表した。各病院で配架してほしい。
- ・「県のたより10月号」にも掲載予定。

#### <神奈川県ピアサポーター養成研修会>

- ・8月17日・18日に養成研修会を開催予定。
- ・申込が多いので2回に分けることも検討中。
- ・研修後に活躍できる場として最初に挙げられるのは、拠点病院、指定病院なので、医療従事者の方に研修を見学してもらって、患者サロンや相談窓口等で活躍の場を設けていただきたい。見学は、予約なしで、短時間でも可能。

#### <がん教育への医療従事者外部講師の派遣>

- ・医療従事者を外部講師として派遣している。
- ・医師だけでなく看護師にも講師になってもらっている。
- ・昨年度は30校に講師を派遣した。今年度は40校の予算を確保した。
- ・派遣する講師は、拠点病院、指定病院に限っていない。若手でも熱い思いのある方に講師を努めてほしいので、病院側からまだ早いなどと止めないでいただきたい。
- ・がん教育を実施しているのは、教育委員会。がん・疾病対策課では、研修出席者の名簿を作成し、教育委員会から講師の要請が来たら、名簿の中で、講師をお願いしている。

### ③県協議会 部会報告

#### <相談支援部会>（松尾副部会長）

- ・2024年度の相談支援部会組織について次のとおり説明された。
- ・部会長は、神奈川県立がんセンター岸田副院長。副部会長は、横浜市立大学附属病院の畑さんと、神奈川県立がんセンターの松尾科長。構成施設は32施設。
- ・2024年6月18日に第1回部会がオンラインで開催され、31施設64名が参加した。
- ・第2回は2月7日に対面で実施予定。コロナの感染状況等により調整する。
- ・第1回会議の主な内容は、会議予定の共有認識、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会第22回情報提供・相談支援部会の報告、ワーキンググループ活動について。
- ・ワーキンググループは、6つのテーマに沿ったグループ（PDCA、就労支援、ピアサポート、教育企画、広報、情報支援ツール）と地域ごとの取り組みとして行政と連携して広報活動を積極的に行っている、相模原市と川崎市が活動中。各グループより本年度の活動を発表し、共有した。
- ・ピアサポートワーキンググループでは、神奈川県がん診療連携協議会ピアサポート促進検討会議と協働して、昨年度実施したがんサロン実施状況についてのアンケート結果

から見えてくる課題点に取り組んでいく。

- ・P D C Aワーキンググループでは、P D C Aチェックリストの評価をアクションにつなげるよう活動していく。
- ・昨年度課題となっていた取組みについて事前アンケートを実施した。
- ・相談者よりフィードバックを得るためのアンケートについては、調査方法等をP D C Aワーキンググループで検討し、相談支援部会として本年度実施していく。
- ・研修会の回数や時間については、年4回のうち2回は相談支援部会と同日開催を希望するが70%だったので、2025年度はその方針とする。妊孕性温存に関する研修会の実施希望が78.8%だったので、2025年度のテーマとする。
- ・研修会は本年度11月のフォーラムを含めて、3回開催予定。第1回は「がん診療連携拠点病院等のP D C Aチェックリストの効果的な活用について考える」をテーマに、7月12日に実施し、36名の参加があった。第2回は2月に実施予定。11月9日(土)に4都県共同の地域相談支援フォーラムがオンラインで開催予定。今回は神奈川県が担当で、「超高齢化時代のがん治療」というテーマで準備中。
- ・今後の主な取組みは1) 地域相談支援フォーラムの開催、2) P D C Aチェックリストの活用による各施設の課題の明確化と取組み、3) 相談者からのフィードバックを得るためのアンケート実施、3) ピアサポートワーキンググループとピアサポート促進検討会議の協働。

#### <院内がん登録部会> (小池部会長)

- ・第1回院内がん登録部会は7月18日に開催したが議事録が間に合っていない。参加者は54名。
- ・部会同日に第1回研修会を実施。新しい試みとして議題を3つ決めて、グループワークを実施した。好評だったようなので、今後も続けるか検討していく。研修会の参加者は45名。研修はオンラインでは難しいので、状況を見ながら参集型で実施したい。
- ・各施設のがん登録公表における10例以下扱いについては、アンケート結果を確認し、部会での承認内容を報告する。

#### <緩和ケア部会> (太田部会長)

- ・第1回は、令和6年6月3日に、参集型で開催した。当部会には、各施設から2~3名、毎回70名~80名の参加がある。
- ・神奈川県からの報告では防がんマップについて説明され、質疑応答があった。
- ・緩和ケア部会は、各病院において緩和ケア領域のP D C Aサイクルをうまく回せるように、お手伝いをするために始まった。
- ・最初は、お互いに病院訪問をして、ピアレビューという形を取っていたが、現在はそれではハードルが高いため、グループワークを実施している。
- ・今回のグループワークでは、各施設の緩和ケア部門が立てている目標を事前に送ってもらって、その目標達成のために他施設から指摘、助言を受ける形でディスカッションし

た。このときのディスカッションの結果は各施設から提出してもらって、中身を吟味する。それを第2回部会で提示して、達成状況を報告してもらう予定。

- ・次回は1月20日開催予定。

#### <がん薬物療法部会> (酒井部会長)

- ・第1回部会を7月5日に開催した。
- ・最初に昨年度実施したアンケート集計結果報告を行った。この結果をもとにがん薬物療法に関わるテーマを提案し、各施設で取り上げたいテーマを選んでもらってグループ分けをし、グループワークを実施し、発表をしてもらった。詳細は議事録参照。
- ・開催後に実施した事後アンケートの結果について概要を説明する。
- ・開催時間は、これまで時間外で実施していたが、協議会同様に、働き方改革を鑑みて前倒しで実施してく。
- ・開催形式については、オンラインの希望が多かったが、現地開催の利点もあるので、年2回のうち1回は現地開催する予定。
- ・県の協議会によるがん薬物療法に関わるマニュアルやひな形の作成を希望する声が多数だったので、今後ワーキンググループを立ち上げて、がん薬物療法部会の今年度後半から次年度に向けて活動の目玉にしていく予定。
- ・ピアレビューを希望する施設が半数いるので、感染状況を見ながら開催の方向を検討する予定。

#### ④ピアサポート促進検討会議報告 (佐々木会議議長)

- ・ピアサポートについては議論がさまざまに変遷し、今では、研修、普及、活動の場の確保など、ピアサポート活動に非常に幅広い支援が必要になってきた。
- ・自治体に求められているのは、広報、研修会の企画と開催、研修を受けたピアサポーターの把握とネットワーク等の支援、ピアサポーターの活動支援、ピアサポーターの質の評価と担保への関与等。
- ・このうち、研修会の企画と開催、ピアサポーターの質の評価と担保への関与については、神奈川県にお願いする。
- ・8月17日・18日に神奈川県民ホールで第2回ピアサポーター養成研修会が開催される。1日目の13時40分からの「自分の体験を語る」部分を見学してもらえるとピアサポーターが自分の経験を語ることで、患者がどのような助けを得られるかが生でわかると思う。
- ・広報、研修を受けたピアサポーターの把握とネットワーク等の支援、ピアサポーターの活動そのものを支援すること、などに関しては、神奈川県がん診療連携協議会の下にあらたに設置された「ピアサポート促進検討会議」が担当する。
- ・「ピアサポート促進検討会議」は、神奈川県内のがん診療連携拠点病院およびがん診療連携指定病院におけるピアサポーターの促進にかかわること、神奈川県のがん診療におけるピアサポートの促進にかかわることを行う。

- ・ 7月16日に第1回会議を開催した。
- ・ 促進検討会議は、広報も含めて、拠点病院、指定病院の先生がたにピアサポートについて知ってもらい、すでに活動しているのであればそれを支援してもらうために、活動していく。
- ・ ピアサポートについて医療機関に求められていることの中にある、「ピアサポート活動の見学、ピアサポートを受けた患者や家族の話を聞く」という項目について、今後、促進検討会議でアンケート調査を予定しているので、協力をお願いします。
- ・ がん専門相談員とピアサポーター、学会などが認定している病院外部のがん患者支援者等が、お互い顔の見える連携を取ることができる神奈川モデルを目指したい。
- ・ 相談支援部会のピアサポーターワーキングチームと連動しながら、研修を受けたピアサポーターとがん相談員が、顔の見える関係になれる取組みを促進検討会議で行っていく。
- ・ 第1回会議の議事録と会議のメンバーについては、後日報告する。  
(酒井協議会長より補足説明)
- ・ 協議会の下に会議を置くのは初めての試み。部会は全ての施設が参加するものだが、会議は部会とは異なり、構成員の方で運営してもらって、協議会全体で実施すべきことが提案された場合に協議会全体で協力し進めていくという建付けになる。

#### ⑤新規提案事項（酒井協議会長）

<がんゲノム医療連携推進会議の設置について>

- ・ 神奈川県がん対策推進計画の3本柱の2番目、「患者目線に立ったがん医療の提供」の中柱（1）「がん診療連携拠点病院等を中心としたがん医療提供体制」の小柱④に「がんゲノム医療の提供」が明記されている。ここに新たに追加された「がんゲノム医療を提供するための連携・・・ネットワークの構築支援」「人材育成・・・研修会の開催」に、協議会として関与していく必要があると考えている。
- ・ 神奈川県内には、4つの拠点病院と、11の連携病院がある。
- ・ 北里大学病院は6月1日からエキスパートパネルを開始したので、県内でエキスパートパネルを開催しているのは、拠点病院4＋北里大学病院の5施設。
- ・ この5施設で保険診療で行えるがんゲノム医療提供できる体制を構築する必要があると考えている。
- ・ まずは、現状を把握し、県内のがんゲノム医療の連携推進に係ることを話し合う会議体を一つ設けたいと思う。建付けはピアサポート促進検討会議と同様。
- ・ エキスパートパネルを開催している病院から当協議会に参加している医師に声掛けをしたところ、会議設置に賛成多数だった。
- ・ 連携病院についても参加の可否についてアンケートを取る予定。
- ・ 拠点病院、連携病院以外の施設でも参加を希望する施設があれば入ってもらいたいので、アンケートを取る。

### 3. 閉会

- ・津島神奈川県がん・疾病対策課長より、神奈川県では誰一人取り残さないがん対策の推進に向けて、協議会、部会、新たに承認を得た会議が今後ますます充実していくことを期待する。神奈川県に対して皆さまから忌憚のない意見をいただきたい旨挨拶された。
- ・次回協議会は、3月3日(月)16時から、30分前倒しで、がんセンターにて現地開催とする。
- ・協議会終了後に、産業医科大学の立石清一郎先生のがん診療BCPの講演会を企画している。